

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 A-5「算数・数学」を実施しました！

「子どもが育つ 算数授業の『見せ方』と『問い方』」

【講師】筑波大学附属小学校 教諭 森本 隆史 さん



8月24日(月)、「算数・数学」の講座を実施しました。

はじめに森本先生から「子どもから『引き出す』という授業観を大切にしている」というお話がありました。それは授業の中で子どもの「やさしさ・笑顔・わからなさ・感動」等です。そのために「どうやったら子どもたちが笑顔になりながら取り組めるかを考える」とも話されました。この視点について3つ掲載します。1つめは「問い方」で

す。それを見直す際、「どんな子が頭に浮かびますか。どんな対象の子に語りかけていますか。」と私たちに問う場面がありました。「わかる子」を対象にするのではなく、「困っている子」が考え始めることができる問い方をするということです。正解を尋ねるものではなく、「どれだと思う？」のように「思ったこと」を伝える問い方に換えることで、子どもたちの考えを引き出していきます。すぐに「わかった！」という子に説明させるのではなく、その子がどこを見ているのかを子どもたちと共有することで、焦点化していきます。森本先生の「プロとして、形式ではなく意味を大切に子どもを育てたい」という言葉が印象的でした。意味とは「子どもの気持ちや考え」を指しています。それらを教師の「問い方」で育てていきます。2つめに「発展的に考えることを愉しむための見せ方」です。全てを一気に見せるのではなく、何を広げるのか、どこを見せれば問いの連続性がうまれるのか、教師が困っている子を念頭に置きながら教材研究を愉しむことで、子どもが「考えを広げる」ことができる授業を目指すと言われました。最後に「教師の仕事は子ども同士をつなぐこと」です。どこでつなぐのか、それは授業です。教師の言葉がけ一つで、子ども同士の対話が生まれるかが決まります。そのキーワードになる言葉もたくさん教えていただきました。

参加された先生方には、ぜひ2学期からの実践に活かしていただくとともに、各校でも還流していただきますよう、願います。

アンケートより【一部抜粋】

・「子どもたちがどこを見るか、どう見ているか」など、子どもたちの視点をいつも想像して考えているかと自分に問いかける時間になりました。子どもを大事にするということは、自分がどれだけ考えて問うたり声をかけたりするかだと思いました。どのように問うと、子どもたちの考えたいという意欲をかきたてられるか考えていきます。【小】

・授業時間内に流れ良くきれいに終えてまとめられるようにわかる子だけが話して、教師が説明する授業をいつもしてしまっていた。困っている子が考えられるように意図的に「どこを見ているの」「どうしてそう考えたの」と見るところを全員で共有したい。また「〇〇しかないよね」と他にもあるんじゃないかと思わせる問い方をしてみようと思った。【小】

・森本先生の授業を受けてとても楽しかったです。受けている子どもたちも自分で考えたい気持ちになるだろうなと思いました。先生がどんなことを聞いてくるかを予想したり、学んだことを使ったりしたい気持ちになってくるだろうなと思うと、数学を好きになる授業づくりを自分もがんばりたいと思いました。使いたいキーワードがたくさんありました。活かしていきます！【中】

・毎年夏の研修に参加させていただいており、楽しみにしています。もうすぐ2学期が始まってしまおうという気持ちで参加させてもらっていますが、元気をもらって帰ります。今日も「授業でやってみよう！」と思えることもたくさんあり、2学期が始まるのも少しワクワクしてきました。【中】